

2019年度 環境活動レポート
(2019年 7月～2020年 6月)

株式会社ワールド・クリーン

2020/10/31
2021/2/20 改定

目次

1. 環境方針	3
2. 事業活動の規模	4
3. 株式会社ワールド・クリーン 環境経営システム 組織一覧表／役割・責任・権限表.....	6
3-1. 組織一覧表	6
3-2. 役割・責任・権限表.....	7
4. 環境目標	8
廃棄物の削減及びリサイクルの推進.....	8
CO ₂ 排出量の削減.....	8
排水量の削減	8
社会貢献、環境保全の仕組み・体制整備.....	9
5. 環境活動計画	9
廃棄物の削減及びリサイクルの推進.....	9
CO ₂ 排出量の削減.....	9
排水量の削減	10
社会貢献、環境保全の仕組み・体制整備.....	10
6. 実績	11
廃棄物の削減及びリサイクルの推進.....	11
CO ₂ 排出量の削減.....	11
排水量の削減	12
社会貢献、環境保全の仕組み・体制整備.....	13
7. 環境活動計画の取組みと評価、次年度の取組み.....	14
8. 環境関連法規制等の順守状況.....	15
9. 代表者による全体評価と見直しの結果.....	16
資料：株式会社ワールド・クリーン 処理フロー図.....	17

1. 環境方針

環 境 方 針

<環境理念>

当社は環境悪化ストッパーとして、現在の我々と未来の子孫が、安全快適にこの地球上で生活することが出来る環境を保持するために、『環境保全第一』を環境理念に掲げ、廃棄物を資源と捉え、廃棄物の有効活用と、法に則った環境保全を推進することが、当社の役割であることを全社員が認識し、全社一丸となって環境保全活動に取り組めます。

<環境保全行動指針>

I. 具体的行動

① 廃棄物の削減及びリサイクルの推進

- 産業廃棄物
 - 当社に処理を委託された全ての廃棄物のリサイクル率を常に把握し、飼料化率の向上及び廃プラスチック類のリサイクルを進める。
- 一般廃棄物
 - 飛島リサイクルセンターから排出される可燃ごみ、不燃ごみ、紙くずの発生量を毎月把握し、増加の際は原因を追及し改善を計画する。

② CO2 排出量の削減

- 電力
 - 飛島リサイクルセンターの電力量を常に把握し、増加の際は原因を追及し、改善を計画する。
- 自動車燃料
 - 営業車、トラック、フォークリフト
 - ❏ 燃料使用量を毎月モニターし、燃費悪化が著しい場合は原因を追及し改善を計画する。
 - ❏ 将来は電気やハイブリッド車輛を優先的に利用する事を検討する。
- LP ガス
 - ❏ 飛島リサイクルセンター事務所の使用量を毎月把握し、増加の際は原因を追及し改善を計画する。

③ 排水量の削減

- 飛島リサイクルセンター作業洗浄水の使用量を毎月把握し、増加の際は原因を追及し改善を計画する。
- 飛島リサイクルセンター事務所の使用量を毎月把握し、増加の際は原因を追及し改善を計画する。

④ 社会貢献

- 未利用エネルギー資源のエネルギー化の研究開発と実施
- 地域での環境保全活動への参加

II. 法令の遵守

- 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。

III. 環境活動の公表

- 環境への取り組みを環境活動レポートとしてとりまとめ公表します。

2010年 4月 3日

改訂：2017年12月26日

改訂：2018年 1月 5日

株式会社ワールド・クリーン
代表取締役 長尾 秀義

2. 事業活動の規模

■登録事業所の概要

事業所名及び代表者名

株式会社ワールド・クリーン

代表取締役 長尾秀義

法人設立年月日：平成4年4月17日

■所在地

本社、飛島リサイクルセンター：愛知県海部郡飛島村金岡54番

■環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者：藤本和也(事業部長)

連絡先：0567-57-0533

担当者：藤本和也(事業部長)

連絡先：0567-57-0533

■事業内容(認証・登録の範囲)

- 産業廃棄物中間処理、産業廃棄物収集運搬、食品廃棄物の再生・飼料製造
(対象事業場：本社、飛島リサイクルセンター)

・事業の規模

資本金 10,000(千円)

年間売上 834,607(千円)(2019年度)

従業員数 18名

延床面積 879.3 m²

・処理能力(中間処理業)

・事業の区分

- 中間処分(圧縮・選別、混練、選別、破碎、破碎・選別)

廃棄物処分業許可番号：第02320075513号

許可年月日：令和元年7月12日

許可有効年月日：令和6年5月5日

破碎・選別施設 8.72 m³/日

廃酸(水銀含有ばいじん等を除く。)、廃アルカリ(水銀含有ばいじん等を除く。)、ガラスくず・コンクリートくず(工作物の新築、改築又は除去に伴って生じたものを除く。)及び陶磁器くず(自動車等破砕物及び石綿含有産業廃棄物を除く。)
(上記品目は水銀使用製品産業廃棄物を除く。)

破碎・選別施設 29.2 m³/日

廃酸(水銀含有ばいじん等を除く。)、廃アルカリ(水銀含有ばいじん等を除く。)、ガラスくず・コンクリートくず(工作物の新築、改築又は除去に伴って生じたものを除く。)及び陶磁器くず(自動車等破砕物及び石綿含有産業廃棄物を除く。)
(上記品目は水銀使用製品産業廃棄物を除く。)

破碎・選別施設 8.4 m³/日

汚泥(水銀含有ばいじん等を除く。)、廃油、廃酸(水銀含有ばいじん等を除く。)、廃アルカリ(水銀含有ばいじん等を除く。)、廃プラスチック類(自動車等破砕物及び石綿含有産業廃棄物を除く)
(上記品目は水銀使用製品産業廃棄物を除く。)

破碎施設 40.16 m³/日

動植物性残さ

(上記品目は水銀使用製品産業廃棄物を除く。)

破碎施設 17.12 m³/日

廃プラスチック類(自動車等破砕物及び石綿含有産業廃棄物を除く)

(上記品目は水銀使用製品産業廃棄物を除く。)

圧縮・選別施設 22.48 m³/日

廃酸(水銀含有ばいじん等を除く。)、廃アルカリ(水銀含有ばいじん等を除く。)、

廃プラスチック類(自動車等破砕物及び石綿含有産業廃棄物を除く)、金属くず
(上記品目は水銀使用製品産業廃棄物を除く。)

選別施設 88 m³/日

汚泥(水銀含有ばいじん等を除く。)、廃油、廃酸(水銀含有ばいじん等を除く。)、
廃アルカリ(水銀含有ばいじん等を除く。)、廃プラスチック類(自動車等破砕物
及び石綿含有産業廃棄物を除く)、動植物性残さ、金属くず(自動車等破砕物を除
く)

(上記品目は水銀使用製品産業廃棄物を除く。)

混練施設 156 m³/日

汚泥(水銀含有ばいじん等を除く。)、廃油、廃酸(水銀含有ばいじん等を除く。)、
廃アルカリ(水銀含有ばいじん等を除く。)、動植物性残さ

(上記品目は水銀使用製品産業廃棄物を除く。)

・収集運搬業(いずれも積替え保管を含まない)

車両台数：2台(4t脱着コンテナ車 1台、10tウイング車 1台)

(※主として場内作業用であるが、業としても稼働)

許可自治体

愛知県 許可番号02300075513

許可日 平成28年3月19日、有効期限：平成33年3月18日

許可品目

燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類(自
動車等破砕物及び石綿含有産業廃棄物を除く)、紙くず、木くず、
繊維くず、動植物性残さ、金属くず(自動車等破砕物を除く)、ガ
ラスくず・コンクリートくず(工作物の新築、改築又は除去に伴
って生じたものを除く。)及び陶磁器くず(自動車等破砕物及び石
綿含有産業廃棄物を除く)、がれき類(石綿含有産業廃棄物を除
く)、ダスト類 以上14種類

岐阜県 許可番号02100075513

許可日 平成28年6月12日、有効期限：平成33年6月11日

燃え殻、汚泥、廃プラスチック類(自動車等破砕物を除く。)、紙
くず、木くず、繊維くず、金属くず(自動車等破砕物を除く。)、
ガラスくず・コンクリートくず(工作物の新築、改築又は除去に
伴って生じたものを除く。)及び陶磁器くず(自動車等破砕物を除
く。)、がれき類

上記9品目は石綿含有産業廃棄物であるものを除く。

廃油、廃酸、廃アルカリ、動植物性残さ、ばいじん
以上14種類

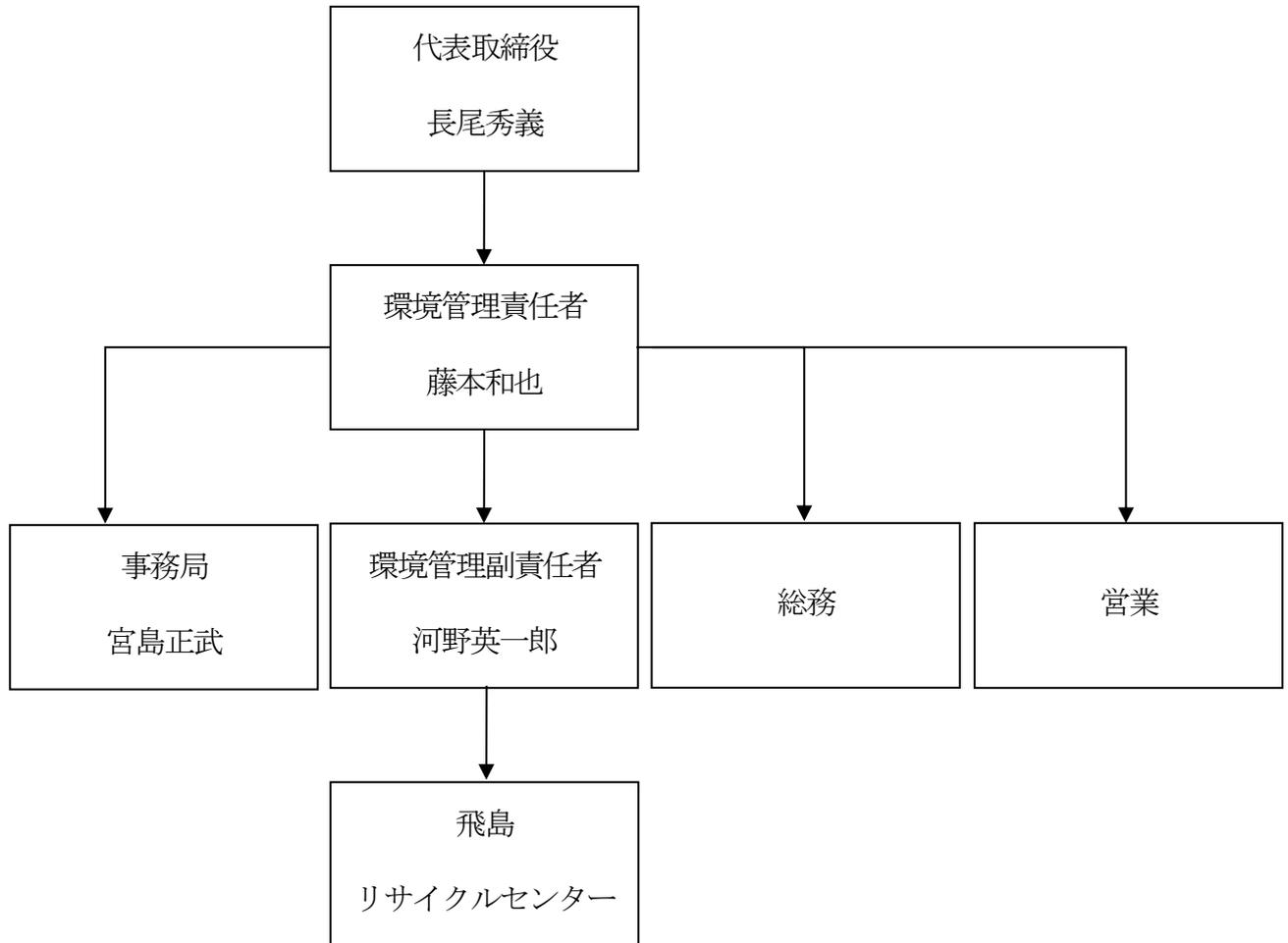
・年間処理量(中間処理業) 10,327.4t (2019.07.01~2020.06.30実績)
・年間処理量(収集運搬業) 1,108.5t (2019.07.01~2020.06.30実績)

■事業年度 7月 ~ 6月

3. 株式会社ワールド・クリーン 環境経営システム 組織一覧表／役割・責任・権限表

(全組織、全活動を対象として環境活動に取り組んでいる)

3-1. 組織一覧表



3-2. 役割・責任・権限表

環境経営システム 役割・責任・権限表

	役割・責任・権限
代表取締役	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営に関する統括責任。 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備。 ・環境管理責任者を任命。 ・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境目標・環境活動計画書を承認。 ・代表者による全体の評価と見直しを実施。 ・環境活動レポートの承認。
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの構築、実施、管理。 ・環境関連法規等の取りまとめ票を作成・承認。 ・環境目標・環境活動計画書を確認。 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境活動レポートの作成。
環境管理副責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者の補佐 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施。 ・環境活動の進捗状況の確認・報告 ・環境目標、環境活動計画書原案の作成補助。 ・整理整頓状況の管理
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者の補佐、EA21 推進委員会の事務局。 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施。 ・受入・出荷に関する集計表を作成します。 ・環境活動の実績集計。電気・水道・ガス・化石燃料の集計のほか、環境活動の実施レポートの取りまとめを行います。 ・環境への取り組み自己チェックリストを作成します。(年1回) ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口。行政機関や取引先との間での環境関連のコミュニケーションの窓口を担います。コミュニケーションが実際に行われた場合には、外部コミュニケーション記録を記載します。 ・環境活動レポートの公開(事務所に備付けと地域事務局への送付) ・毎月の社内報の発行を行います。
部門長	<ul style="list-style-type: none"> ・自部門における環境経営システムの実施。 ・自部門における環境方針の周知。 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告。 ・特定された項目の手順書作成及び運用管理 ・自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成 テスト、訓練を実施、記録の作成。 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施。
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加。

4. 環境目標

廃棄物の削減及びリサイクルの推進

(注) 2019年の目標は2015年の基準を使用し、2019年実績を踏まえて2020年以降の目標は2018年を基準値として目標を再設定。2021年度は2020年度を基準値として設定。

項目 細目	基準年 (2015年度) (実績)	基準年 (2018年度) (実績)	今年度目標 (2019年度)	次年度目標 (2020年度)	次々年度目標 (2021年度)
受け入れ廃棄物中の 飼料化割合	33.2% (3,766.92 t /11,331.88 t)	9.0% (935.77 t /10601.96 t)	40.0%	14.0%	2020年度比 3%増
受入れ廃棄物中の廃プ ラスチック類リサイク ル量割合	2.0% (227.67 t /11,331.88 t)	2.7% (280.99 t /10601.96 t)	15.0%	7.0%	2020年度比 10%増
一般廃棄物量 (事務所ゴミ) 総量	464.04kg	342.20kg	12%減 (408.35kg)	2018年度比 5%減 387.6kg	2020年度比 3%減

CO₂排出量の削減

(注) 2015年度実績、2019年目標・実績についてはCO₂換算係数は0.486 kg/kWhを使用

(注) 2018年度実績、2020年目標についてはCO₂換算係数は0.457 kg/kWhを使用

(注) 2019年の目標は2015年の基準を使用し、2019年実績を踏まえて2020年以降の目標は2018年を基準値として目標を再設定。2021年度は2020年度を基準値として設定。

総排出量 18年度 131,793 (kg-CO₂) 15年度 161,774 (kg-CO₂)

項目 細目	基準年 (2015年度) (実績)	基準年 (2018年度) (実績)	今年度目標 (2019年度)	次年度目標 (2020年度)	次々年度目標 (2021年度)
受入れ廃棄物1 t あたり電力関係 CO ₂ 排出量	9.67 kg-CO ₂ /t 【電力による総排出量】 105,503.31 (kg-CO ₂)	6.66 kg-CO ₂ /t 【電力による総排出量】 70,608.79 (kg-CO ₂)	2015年度比 35%減 6.28 kg-CO ₂ /t	2018年度比 5%減 6.33 kg-CO ₂ /t	2020年度比 5%減
受入れ廃棄物1 t あたり化石燃料 CO ₂ 排出量	5.16 kg-CO ₂ /t 【化石燃料による総排出量】 56,270.50 (kg-CO ₂)	5.77 kg-CO ₂ /t 【化石燃料による総排出量】 61,183.80 (kg-CO ₂)	2015年度比 8%減 4.74 kg-CO ₂ /t	2018年度比 5%減 5.48 kg-CO ₂ /t	2020年度比 5%減

排水量の削減

(注) 2019年の目標は2015年の基準を使用し、2019年実績を踏まえて2020年以降の目標は2018年を基準値として目標を再設定。2021年度は2020年度を基準値として設定。

項目 細目	基準年 (2015年度) (実績)	基準年 (2018年度) (実績)	今年度目標 (2019年度)	次年度目標 (2020年度)	次々年度目標 (2021年度)
受入れ廃棄物1 t あたり水使用量	0.097 m ³ /t 【総使用量】 1,071 m ³	0.087 m ³ /t 【総使用量】 924 m ³	2015年度比 10%減 (0.085 m ³ /t)	2018年度比 5%減 (0.092 m ³ /t)	2020年度比 5%減

社会貢献、環境保全の仕組み・体制整備

項目 細目	基準年 (実績)	今年度目標 (2019 年度)
地域での環境保全活動への参加	—	環境奉仕活動への参加
グリーン調達への推進		グリーン調達購入 (継続)
国内外環境活動への協力参加		各種環境団体への積極的参加
体制整備 (コンプライアンス・従業員育成)	—	処理体制の拡充、作業員増員
コミュニケーション体制整備		社内報、週報、月報の発行 (継続)
環境整備		防虫・防疫の実施、清掃による悪臭の予防
社内美化		5S の推進
未利用エネルギーの研究開発		メタンガス発電の調査・研究

5. 環境活動計画

廃棄物の削減及びリサイクルの推進

項目 細目	管理項目	具体的活動
全排出量中の廃プラスチック類リサイクル量 (マテリアル・サーマル) 割合	サーマルリサイクル量 マテリアルリサイクル量	廃棄物処理ライン細分化 サーマルリサイクルへの排出量増加 (サーマルリサイクル出荷先の開拓) 内袋のマテリアルリサイクルの徹底 廃プラスチック類洗浄ライン設置
全排出量中の飼料化割合	飼料化量 全排出量	廃棄物処理ライン細分化 (継続) 新規飼料化品目の開拓 (継続) ビン入り飲料の飼料化 (継続) 油脂分のリサイクルを進める (販売量を把握する) (継続)
一般廃棄物量 (事務所ゴミ) 総量	可燃ごみ量 不燃ごみ量	封筒、メモ紙など古紙リサイクルの可燃ごみへの混入防止徹底 (継続)

CO₂排出量の削減

項目 細目	管理項目	具体的活動
受入れ廃棄物 1 t あたり電力関係 CO ₂ 排出量	使用電力	夏季 28 度、冬季 20 度設定 (継続) 照明 LED 化 (継続) 工場内照明日中 OFF (継続) 天井扇間欠稼働 (継続)
	電力量増加の監視	デマンド値を管理する (継続) 中部電力 WEB サービス (使用量等管理) の利用 (継続)
受入れ廃棄物 1 t あたり化石燃料 CO ₂ 排出量	ガソリン使用量 軽油使用量	フォークリフトの燃料使用量把握 (継続) アイドリングストップ運動 (継続) エコドライブ推進 (継続) 社内報での定期的呼びかけ (継続)
	灯油使用量 LP ガス使用量	灯油使用量の把握 (継続) LP 給湯 (工場) 温度管理 (継続) 高圧洗浄機 温水スイッチの制御 (温度管理) (継続) 備蓄燃料タンクの導入 (配達回数削減)

排水量の削減

項目 細目	管理項目	具体的活動
利用水の削減	上水使用量監視	<ul style="list-style-type: none"> 工場洗浄水の抑制（継続） 加水作業縮減（継続） 水道使用量の見える化（継続）

社会貢献、環境保全の仕組み・体制整備

項目 細目	管理項目	具体的活動
地域での環境保全活動への参加	地域清掃活動への参加	<ul style="list-style-type: none"> 2回/年の地域一斉清掃活動への参加 藤前干潟清掃活動への参加
グリーン調達の推進	グリーン調達	<ul style="list-style-type: none"> コピー用紙グリーン調達率 100%達成（継続） グリーン調達品目の拡大（継続）
国内外環境活動への協力参加	環境団体（UNEP等）・公共団体等開催のイベントへの協力	<ul style="list-style-type: none"> 資源再生ネット、東海農環協、CRN への参加 愛知県産業廃棄物協会 活動への参加
体制整備 (コンプライアンス・従業員育成)	体制整備・強化	<ul style="list-style-type: none"> 外部講習等への参加（実務者研修、職長教育、安全衛生教育等） 従業員環境教育の実施
コミュニケーション体制整備	見える化の推進	<ul style="list-style-type: none"> 週報・月報の発行（継続） 在庫一覧及び週ごとの棚卸（継続）
環境整備	防虫・防疫強化 悪臭予防	<ul style="list-style-type: none"> 殺虫剤散布（継続） 防疫措置(豚コレラ予防・殺菌)（継続）
社内美化	5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）	<ul style="list-style-type: none"> 整理整頓清掃の実施（継続）
未利用エネルギーの研究開発	メタンガス発電の研究	<ul style="list-style-type: none"> 当社廃液によるメタン発酵試験

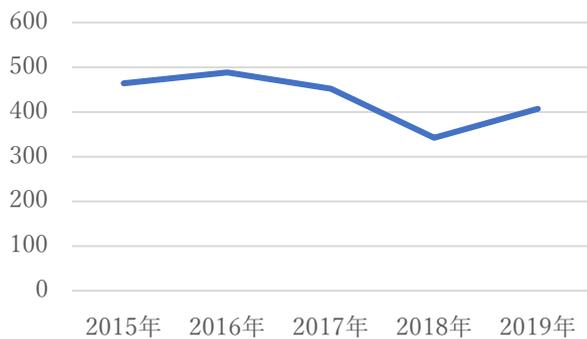
6. 実績

廃棄物の削減及びリサイクルの推進

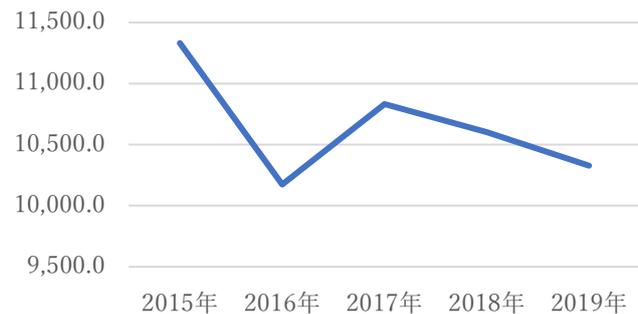
(注) 化学物質の使用無し。

項目		基準年 (2015年度)	今年度目標 (2019年度)	今年度実績 (2019年度)
総排出量 (=受入れ廃棄物)		11,331.88 t	—	10,327.37 t
産業廃棄物の削減	全排出量中の廃プラスチック 類リサイクル量 (マテリア ル・サーマル) 割合	2.0% (227.67 t /11,331.88 t)	15.0%	1.5% (156.68 t /10,327.37 t)
	全排出量中の飼料化割合	33.2% (3,766.92 t /11,331.88 t)	40%	17.8% (1,834.72 t /10,327.37 t)
一般廃棄物の削減	一般廃棄物量	464.04kg	15年度に対して 12%減 (408.35kg)	15年度に対して 12.3%減 (407.30kg)

一般廃棄物



廃棄物受け入れ量



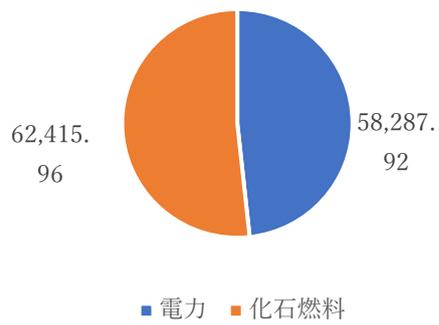
CO₂ 排出量の削減

(注) CO₂換算係数は0.486 kg/kWhを使用

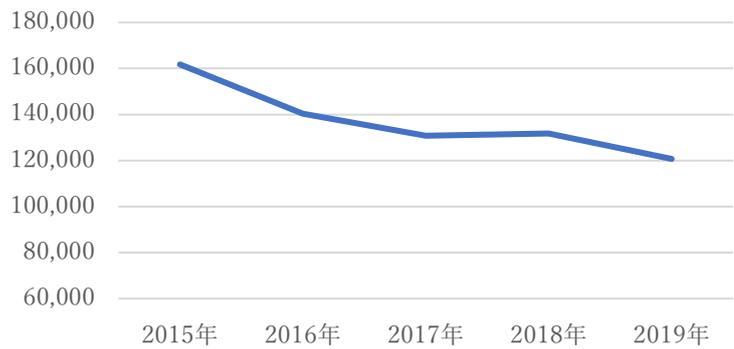
総排出量 19年度 126,704 (kg-CO₂) 15年度 161,774 (kg-CO₂)

項目		基準年 (2015年度)	今年度目標 (2019年度)	今年度実績 (2019年度)
総排出量 (=受入れ廃棄物)	総排出量 (kg-CO ₂)	169,950	—	120,703.89
	電力使用に伴う排出量 (kg-CO ₂)	113,680	—	58,287.92
	化石燃料使用による総排出量 (kg-CO ₂)	56,270	—	62,415.96
電力の二酸化炭素排出量 削減	受入れ廃棄物1 tあたり電力 関係CO ₂ 排出量 単位: kg-CO ₂ /t	9.67	6.28 15年度に対して 35%減	5.64 15年度に対して 42.7%減
化石燃料の二酸化炭素排 出量削減	受入れ廃棄物1 tあたり化石 燃料 単位: kg-CO ₂ /t	5.16	4.74 15年度に対して 8%減	6.04 15年度に対して 17%増

二酸化炭素由来別グラフ



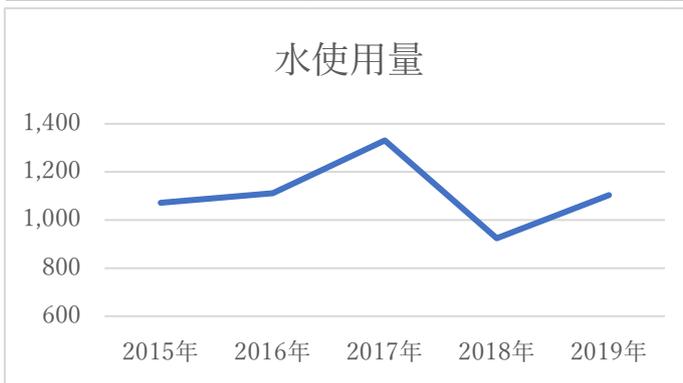
二酸化炭素排出量（総合）



排水量の削減

項目		基準年 (2015年度)	今年度目標 (2019年度)	今年度実績 (2019年度)
水使用量の削減	総使用量	1,071 m ³	—	1,104 m ³
	受入れ廃棄物 1 t あたり水使用量 単位：m ³ /t	0.097	15年度に対して 10%減 (0.085 m ³ /t)	0.107 2015年度に対して 10%増

水使用量



社会貢献、環境保全の仕組み・体制整備

項目	管理項目	活動実績
地域での環境保全活動への参加	地域清掃活動への参加	<ul style="list-style-type: none"> ・地域一斉清掃活動（秋・春）参加 ・藤前干潟不法投棄撤去活動参加
グリーン調達への推進	グリーン調達	<ul style="list-style-type: none"> ・コピー用紙・文房具などをグリーン調達品目から購入（継続）
国内外環境活動への協力参加	環境団体（UNEP等）・公共団体等開催のイベントへの協力	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知県産業廃棄物協会、中部異業種間リサイクルネットワーク（CRN）、しげんさいせいネット、東海農環協に参加 ・SDGsを意識した取り組みを開始
体制整備 (コンプライアンス・従業員育成)	体制整備・強化	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知県産業廃棄物協会主催の実務者研修、安全衛生責任者教育に社員を派遣（各1名） ・職長・安全衛生責任者教育に社員を派遣（1名） ・社独自の防災の日を制定（6/6） ・国家資格取得支援制度創設 ・全国産業資源循環連合会主催 e-Learning 社員受講1名 ・産業廃棄物処理検定受験3名、合格2名
コミュニケーション体制整備	見える化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・社内情報管理システムの検討（継続） ・週報・月報の発行（継続） ・在庫一覧及び週ごとの棚卸（継続）
環境整備	防虫・防疫強化 悪臭予防	<ul style="list-style-type: none"> ・殺虫剤散布（継続） ・防疫措置（豚コレラ予防・殺菌）（継続） ・アスファルト補修（地下浸透の予防）実施
社内美化	5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）	<ul style="list-style-type: none"> ・整理・整頓・清掃の励行を実施 ・水路清掃を実施
未利用エネルギーの研究開発	メタンガス発電の研究	<ul style="list-style-type: none"> ・当社廃液によるメタン発酵試験 ・毎月の試験結果確認会議

藤前干潟清掃活動



7. 環境活動計画の取組みと評価

2019年7月～2020年6月の1年間の活動と取組み及びその評価

(注) 目標の達成状況 ○：目標値以上 △：目標値の80%以内 ×：目標値の80%以下未達

活動計画・達成状況	環境活動計画の取組結果の評価
廃棄物の削減及びリサイクルの推進 ■産業廃棄物： 目標：全受入量中の廃プラスチック類リサイクル量 (マテリアル・サーマル) 割合 15.0% 結果：全排出量中の廃プラスチック類リサイクル量 (マテリアル・サーマル) 割合 1.5% (156.68 t / 10,327.37 t) 目標の達成状況：×	目標の達成状況：× 海外の廃プラスチック類リサイクル状況は改善しなかった。また昨年度からのサーマルリサイクルの受け入れ量抑制の影響もあり、サーマルリサイクルのリサイクル実績は悪化した。プラスチックの洗浄を調査するなどしたが、2019年度中には効果を上げることが出来なかった。2020年度には新しくサーマルリサイクル業者との契約が締結される予定であり、リサイクル量の向上が見込まれている。
■産業廃棄物： 目標：全排出量中の飼料化割合 40.0% 結果：全排出量中の飼料化割合 17.8% (1,834.72 t / 10,601.96 t) 目標の達成状況：×	豚コレラの影響は徐々に低下してきたが、飼育頭数の減少などを理由として取引農場が受け入れ量の制限を実施したために、飼料化割合は大きく減少した。ただ、7-12月期が11.7%にとどまったのに対し、1-6月期は24.9%と回復傾向にあるため、来年度3月(2021年3月)までは飼料化割合の向上が見込まれる。
■一般廃棄物 一般廃棄物量 2015年度に対して12%減 (408.35kg) 結果：2015年度に対し12.3%減(407.30kg) 目標の達成状況：○	目標は達成できたが、2018年度と比較すると20%ほど増加してしまった。可燃ごみが年間通じて増加傾向にあるが、古紙相場の悪化によりシュレッダーくずなどリサイクルにコストがかかる紙が焼却に回ったことが原因と考えられる。
CO₂排出量の削減 【総排出量】 15年度 161,774 (kg-CO ₂) 18年度 136,273 (kg-CO ₂) 19年度 120,704 (kg-CO ₂)	目標の達成状況：×
■電力関係 目標：受入れ廃棄物1tあたり電力関係CO ₂ 排出量 15年度(9.67)に対して35%減 結果： 受入れ廃棄物1tあたり電力関係CO ₂ 排出量 5.64 kg-CO ₂ /t 15年度に対して42.7%減 【2019電力関係排出量】 58,287.92 (kg-CO ₂) ※受入れ廃棄物量 10,327.37 t 目標の達成状況：○	バッテリーフォークリフトの導入による使用電力量の増加及び工場内の照明のLED化の延期のため、使用電力量が増加することも考えられたが、天井扇の間欠作動や不必要な照明の消灯など地道な活動、加えて冷蔵庫の運用時間が短縮されたことにより使用電力量を削減することが出来た。
■化石燃料 目標：受入れ廃棄物1tあたり電力関係CO ₂ 排出量 15年度(5.16)に対して8%減(4.74) 結果：受入れ廃棄物1tあたり化石燃料CO ₂ 排出量 6.04(kg-CO ₂ /t) 15年度に対して17%増 【2018化石燃料関係排出量】 61,183.80 (kg-CO ₂) 目標の達成状況：×	フォークリフトの軽油使用量は、バッテリーフォークリフトの導入効果があり、年間実績としてはCO ₂ を削減することが出来た。しかしながら、有価物の運搬を自社車両で行う回数が増加し、産業廃棄物の運搬量が減少したにもかかわらずトラックに関する軽油使用量が増えたことが原因であると考えている。

活動計画・達成状況	環境活動計画の取組結果の評価
排水量の削減	
受入れ廃棄物 1 t あたり水資源投入量の削減 ■水使用量 目標：2015 年度に対して 10%減 結果：受入れ廃棄物 1 t あたり水使用量 0.085 2015 年度に対して 10%増 目標の達成状況：× 【総使用量 1,104 m³】	豚コレラ（豚熱）対策のため、容器・設備洗浄による水の使用量が増加した。通常の洗浄作業に加え、飼料用容器の洗浄強化、石灰散布のための水散布などを実施。水溢れ防止の器具を導入するなど水の無駄遣いを減らす努力は実施したが、豚コレラ予防のための水使用量増加が非常に多かったため、目的を達成することは出来なかった。
社会貢献	
※現状把握及び基準の策定 目標の達成状況：○	例年通り、各種環境団体への参加、活動を実施した。
環境保全の仕組み・体制整備	
※体制整備 目標の達成状況：○	環境法令のWEB上での学習（e-learning）を実施したほか、毎年6月6日をワールド・クリーン独自の防災の日とし、直近の営業日で防災訓練を実施することとした。このことにより防災の意識は高まった。職長・安全衛生責任者教育をはじめとした外部講習についても積極的に社員を参加させた。

(注) 目標の達成状況 ○：目標値以上 △：目標値の80%以内 ×：目標値の80%以下未達

8. 環境関連法規制等の順守状況

適用される法規制	遵守状況
廃棄物処理法	遵守
浄化槽法	遵守
消防法	遵守
労働安全衛生法	遵守
下水道法	遵守
水質汚濁防止法	遵守
悪臭防止法	遵守
食品リサイクル法	遵守
フロン排出抑制法	遵守
愛知県条例(県民の生活環境の保全等に関する条例)	遵守
愛知県条例(廃棄物の適正な処理の促進に関する条例)	遵守

環境関連法規制等の順守状況の評価の結果、環境法規制等の逸脱はありませんでした。
 なお、関係当局よりの違反等の指摘及び訴訟は、過去3年間ありません。

9. 代表者による全体評価と見直しの結果

上水の使用量については、これまでの取り組みの中で水道メーターを使用場所ごとに設けるなど数値の把握に努めてきたが、それに対する具体的な対策を施すことが出来ていない。結果を出すために、雨水利用のためのタンクを設置するなど効果は小さくとも具体的な対策を実行に移す必要がある。

電力使用量は工場の運用により総量としてはCO₂の削減に成功している。今後よりCO₂を削減するために、照明のLED化はスピード感をもって進める必要がある。水銀灯の生産は今後無いのであるから、事業継続の観点からも重要である。

化石燃料について、バッテリーフォークリフトの導入のタイミングで軽油の使用量は大きく減少した。今後も車両入替の際にはバッテリーフォークリフトを導入していく予定であるから、化石燃料由来のCO₂についても今後減少させていくことが出来るだろう。

一般廃棄物は裏紙利用・両面印刷など紙資源の有効利用を継続しているが、ペーパーレスなど、そもそも紙を使用しないようにする対策も進めていかなくてはならない。これまで当社が発行するmanifestoは紙を使用していたが、これを電子manifestoに移行することで、印刷時のゴミの発生や行政報告のための紙の使用量を減らすことが出来る。そのほかにも各種社内申請をメール等ペーパーレス化することで、コストとごみの発生を抑制できるよう、今後も対策を進めていかなくてはならない。

2021年4月より飼料関係の改正法が施行され、当社もその対象となる。農林水産省、飼料利用者等関係者との打ち合わせを綿密に行い、飼料化量が減少することの無いよう対策を講じる必要がある。

組織については、トップダウン型ではなくボトムアップ型の組織となるよう見直しを進めていく。

資料：

株式会社ワールド・クリーン 処理フロー図

